

第4章

教育委員会意見聴取会

	事務事業名	ページ
1	就学援助費交付事業	P100
2	学びの教室事業	P103
3	摩利支天塚・琵琶塚古墳等整備事業	P106
4	栃木国体開催事業	P109

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	就学援助費交付事業		
	担当課	教育総務課	担当係	学校支援係
	事務事業評価シート No.	4	報告書掲載ページ	26・27

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和2年度の活動内容」の適否	適切	2人	<p>○目的に合致しているため。</p> <p>○子どもたちの就学を支える極めて重要な施策であり、必要な子どもにもれなく交付できるように周知の徹底を図る必要がある。学校を通してのチラシ配布や申請の受付に当たっては、当然のことながらプライバシー保護に留意されたい。</p>
			概ね適切	1人	<p>○システムは確立されているので周知の方法をもう少し拡げていくことを期待する。</p>
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	3人	<p>○成果は記述のとおりと判断した。</p> <p>○この事業により子どもたちの教育環境が改善され、教育の機会均等に寄与していることは評価できる。またこれにより外国人の子どもたちが日本において就学の機会を獲得し基礎的な教育を受けられることも大きな意義がある。</p> <p>○把握が困難かもしれないが（特に外国籍の）援助対象とそれ以外の家庭における就学率の違いがわかれば、成果がより客観的に評価可能になる。</p>

		<22>「成果指標 (活動の成果の量 や実績)の 設定の適否	適 切	3 人	<p>○審査は公平公正かつ厳正に行われていることと思うが、申請者の 90%超が認定されており、事業の目的はほぼ達成されていると考えられる。</p> <p>○学齢期の子どもがいる生活保護世帯を母数とした認定率を算出することで、真に援助が必要な家庭への支援状況を複眼的に確認することが可能になるかもしれない。</p> <p>○認定の基準にのっとり適切に判断されたと解釈した。</p>
3. Check -評価-		<33>「総合評価」の 内容の適否	適 切	3 人	<p>○対象事業該当者の増加が見込まれるので、より正確・迅速に事務処理をされますことを期待する。</p> <p>○認定基準の引き下げにより認定者数が増えたことは幸いである。真にこの援助を必要とする子どもを取りこぼすまいとする関係者の努力を評価したい。</p> <p>○社会情勢の影響を強く受ける事業であるため、市民の声に耳を傾けつつ、援助の漏れがないように努めて頂きたい。</p>
4. Action -改善-		<34>「事業の課題、 事業の改善点、今後の 進め方」の内容の適否	適 切	3 人	<p>○行政のデジタル化が今後ますます進展することから、関連する部署間でのデータ連係を行うことで事務の効率性を高めて、人による意思決定が必要な業務にリソースを割り当てることによって、市民生活の向上に役立てて欲しい。</p> <p>○この視点で適切ととらえた。</p> <p>○申請者はそれぞれ事情を抱えているであろうが、特に外国人の状況には厳しいものがあることは容易に推察できる。厳しい現実の中にあっても、支援の必要な子が一人でも多くこの事業の援助を受け教育の機会に恵まれることを期待したい。</p>

総合意見等

○学ぶことは子どもたちの最も重要な基本的人権である。生まれた環境により学びの機会を奪われることがあってはならない。経済格差が学力の格差に結びついていることは多くの調査から明らかになっている。貧困は社会の弱体化である。子どもたちが学ぶことを断念することなく、将来に希望をもって生きていける社会でなければならない。本来ならこうした制度がなくとも子どもたちが十分に学べるのが理想であり、それは基本的には国の態勢の問題である。格差社会が広がるなか子どもたちの学びを保障するために、この事業が広く、手厚く推進されることを強く願う。

○本事業は、経済的に困窮した家庭を支援する手段として重要である。他の類似した事業や NPO 法人などと協力することで、より重層的な支援が可能になると思われるため、横断的な連携を推進してもらいたい。

○主な仕事は制度の周知と認定に伴う事務処理になると思う。指摘の通り①コロナ禍による家庭の経済状況の悪化、②突然の災害、③外国人就労居住者の増加 等により就学援助費交付事業の対象者は予想以上の増加が見込まれる。それに伴い、予算額も増額せざるを得なくなり事務処理量も増えてくるが、支出内容が給食費援助、校外学習費援助、学用品費補助等となっていることから、小山市としてできるだけ手厚く教育援助を行っていただければありがたいと思う。

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	学びの教室事業		
	担当課	生涯学習課	担当係	生涯学習係
	事務事業評価シート No.	11	報告書 掲載ページ	54・55

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和2年度の活動内容」の適否	適切	3人	<p>○開催時期が延期になったのは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため止むを得ないと思う。</p> <p>○限られた人員の中で、効率的な運営がされている。</p> <p>○子どもたちの学力や学習環境は地道な努力で積み上げられていくものなので、このような事業は子どもたちの学びにとって意義深いものであり、7会場を用意しての取り組みは評価できる。</p>
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	2人	<p>○子どもたちの学ぶ意欲に応えようとするこの事業の成果が参加者の反応からも読み取れる。指導者の反応や感想はどのようなものなのであろうか。</p> <p>○参加生徒のみだけでなく、保護者の意見や感想も集めることで、事業の効果や改善点がより明確になると思われる。</p>
			概ね適切	1人	<p>○この教室に来られる生徒は学習への意欲がある生徒かと思う。本当に支援が必要な生徒にも是非参加してほしいと思う。</p>
		<22>「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否	適切	1人	<p>○新型コロナ感染拡大という状況の中でも多くの子どもたちが継続して参加しており、計画がほぼ達成されている。</p>

			概ね適切	2人	<p>○延べ参加者数よりも、純粋な参加者数と総参加回数の2つを指標とすることで、事業効果の検証がより詳細に可能になると考えられる。</p> <p>○延べ参加人数が多い方が成果があったとも言えるが、併せて、学習は継続性が大切なのでリピーター数などの尺度も参考になると思う。</p>
3. Check -評価-	<33>「総合評価」の内容の適否	適切	2人	<p>○生徒は様々な課題を持って参加してくると思うが、指導者側の得意分野とうまくマッチングすると効果を発揮すると思います。</p> <p>○開催場所・時間など、生徒側のニーズをよりきめ細かく確認することで、より効率的で効果的な運営が可能になると考えられる。</p>	
		概ね適切	1人	<p>○参加者の様々な思いや要望を的確に把握して、より学びやすい環境を整備していただきたい。また、そのための指導者間の情報や意見交換の機会などは設けられているのだろうか。</p>	
4. Action -改善-	<34>「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否	適切	2人	<p>○学生ボランティアを増やすために、白鷗大学の教育連携部会に募集依頼することが考えられる。その際に、スクールサポート事業など類似の活動との違いを明確にすることで、学生の参加を促すことが可能になると思われる。</p> <p>○平成27年度開設で事業も周知されてきていると思うので、支援者を増やす努力を引き続き続けてほしい。</p>	
		概ね適切	1人	<p>○学習支援者には一定の要件が必要であり、社会貢献に見合う対応も考慮すべきではないだろうか。</p>	

総合意見等

○生徒の中には、経済的に恵まれて塾に通える子、自力でできる子等様々な環境・能力の子がいると思うが、少し環境を整えてやり、少し手を差し伸べれば格段に学習への意欲がわき、学習の面白さが分かる子がいる。そうした生徒たちのためにもこの事業は意義があると思う。家庭の貧困対策から始まった事業だが、金銭感覚は様々で教育に十分な資金をかけない家庭もあると思うので、将来を考えて子どもの能力を伸ばしてやりたい。指導者が元教員なので専門教科を生かすなら、支援教科を全面に出して広域に柔軟に開設場所を指定することもできると思うが、自習メインで中学生が自力で移動するとなると現在のように自分の学校学区の公民館や交流センターを使用する形になると思う。ボランティアは高齢化対策として、地元大学に通う大学生や地元に住むの大学生が集まれるような働きかけを工夫してみるとよいかと思う。

○「生徒の学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る」とするこの事業の目的は各学校の教育目標と合致し大いに評価できるので、今後も継続していただきたい。予算や学習支援者の確保など課題はあるが「学習習慣の確立」というねらいからすると、実施回数や対象学年の拡大などを検討してもよいのではないだろうか。

○学校以外の場における学びの確保は極めて重要であり、行政として実施すべき事業である。子ども食堂など、学校外における児童をサポートする団体・活動と連携することで、より効果を発揮することができると考えられる。

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳等整備事業		
	担当課	文化振興課	担当係	文化財係
	事務事業評価シート No.	24	報告書掲載ページ	86・87

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和2年度の活動内容」の適否	適切	1人	○業務目的に合致しているため。 ○整備委員会・専門部会の会議開催には至って無いようなので、早期に開催できると良いと思う。 ○衆知を集めるために設置された委員会や部会を有意義に活用し、長期にわたる事業の推進に役立てていただきたい。
			やや不適切	2人	
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	1人	○限られた予算の中で適切に実施されているため。 ○国の方針を踏まえての整備事業であるが、今後も地元や市の要望を活かした小山市の貴重な文化財として価値ある施設にしてほしい。 ○具体的な作業としては理解した。
			概ね適切	2人	
		<22>「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否	適切	1人	○業務の成果に対応しているため。 ○目標数の樹木伐採と予定の沿道整備は予定通り進んだということで理解した。 ○長い歴史を経てきた古墳であれば相当の樹木に覆われているのが自然な景観であろうと思うが、古墳の保護ということであれば伐採もやむを得ないのであろう。
			概ね適切	2人	

3. Check -評価-	<33>「総合評価」の内容の適否	適切	1人	○国の予算や権限が関連する中での事業で有り、市独自で出来ることは限られていることが伺える。市民の認知度が残念ながらそれほど高いとは感じられないため、さらなる広報が求められる。
		概ね適切	2人	○ほぼ評価どおりであると解釈した。 ○業務委託に限らず、この事業の推進に当たってはその目的や市の意向が十分反映され、国史跡にふさわしい整備事業としてほしい。
4. Action -改善-	<34>「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否	適切	1人	○地元住民の理解無くして事業は円滑に進まないが、文化遺産は公共性が高いため、専門部会など大所高所からの意見に基づいて進めるべきである。
		概ね適切	2人	○他県の文化財復興に国の予算が傾斜配分されていることもあり、この事業が長期化することはやむを得ないであろう。それにとりなう新しい課題もでてくるであろうが、当初の計画が実現できるよう整備事業を進めていただきたい。 ○挙げられている点は概ね適切と判断した。年次目標を立てて進めてほしい。
総合意見等		<p>○令和10年度までの長期にわたる事業なので先が長いように感じるが、具体的な工事を伴う事業なので年度ごとの計画に従って進めていくことが大切だと思う。小山市にこのような県内3番目に大きい5~6世紀頃の墳墓が見つかったのは歴史的にとっても意義あることなので、周辺を含め調査中の部分も多々あると思うが、計画のように迅速丁寧に進めて行ってほしいと思う。小山市が歴史的な部分においても財産を持っているということをもっと重視したいと思う。</p> <p>○国からの補助金が流動的なため、計画的に事業を進めることが難しいと思われるが、古墳の歴史的・文化的意義を市民に理解してもらうことで、維持・管理のみならず、有効活用が促進されると考えられる。</p> <p>○県内最大級の摩利支天塚古墳と琵琶塚古墳及びその周辺地域を整備して、史跡公園とするこの整備事業は古代</p>		

と現代を結びつける大変意義深いものである。学術的な価値を損なわずに市民にとっても身近な施設として完成されることを期待したい。憩いの場であるとともに、古墳の歴史的な価値やこの地域の長い歴史に思いを馳せる場所となってほしい。

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	栃木国体開催事業		
	担当課	国体推進課	担当係	
	事務事業評価シート No.	31	報告書 掲載ページ	96・97

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和2年度の活動内容」の適否	適切	2人	<p>○大規模なイベントゆえ長期間の準備をはじめ、市を挙げての対応、市民の協力が不可欠である。これからも市民への周知と機運の醸成が求められる。</p> <p>○記述の通り適切に活動されたと判断した。</p>
			概ね適切	1人	
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	2人	<p>○設定活動を適切と判断した。</p> <p>○各方面からの協力を結集して組織化し、国体開催の原動力とすることは妥当であるが、コロナ禍の中で活動が十分行えたのか懸念される。</p>
			概ね適切	1人	<p>○例えば茨城県への調査など、先催県の視察・調査に関連して実施した内容も記載した方がよいと思われる。</p>
		<22>「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否	適切	1人	<p>○計画どおりの委嘱ができて良好と判断した。協力ボランティアを増やすよう PR に努めてほしい。</p>
			概ね適切	2人	<p>○ボランティアの登録数がまだ足りない現状であるが、開催まで</p>

					に確保できる見通しはあるのだろうか。国体開催が市民の間にまだ周知されていないように感じる。 ○先催県への出張計画も記載した方がよいと思われる。
3. Check -評価-	<33>「総合評価」の内容の適否	適切	2人	○開催・運営の効率化など、引き続き検討をして頂きたい。 ○記述の通り改善に努めていただければ良いと思う。	
		概ね適切	1人	○参考にすべき先催市の開催が難しくなるなど状況は厳しく楽観できない。長い歴史を持つ国体であるから運営の方法の蓄積はあるだろうが、開催は迫っており来年度の大会に向けて業務が滞りなく進められることを願う。	
4. Action -改善-	<34>「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否	適切	2人	○開催に向けて難課題が立ちだかかっており、このような内容になると思う。 ○オリンピックへの関心が高いという状況のため致し方ないと思われるが、市民の認知度がまだ低いと感じられるため、さらなる周知・広報が必要と思われる。	
		概ね適切	1人	○すべてにわたってコロナの影響が見られ、準備作業も様々な困難に直面していることと思うが、これからも全市的な機運の醸成に努めていただきたい。ホームページも有効な手段だが、ネット情報に縁遠い市民も多数いるのではないか。	

総合意見等

○1980年の「栃の葉国体」以来の本県開催であるが、コロナ終息の見通しもまだ立たず非常に悩ましい現状である。また今年度はコロナの重苦しい雰囲気の中で東京五輪・パラリンピックが開催され、来年度の国体に市民の目を向けることが大変難しかったのではないかと。不確定の要素が多々あるにしても小山市らしい大会の開催に向けて抜かりなく準備を進めていただきたい。

○1回限りの大規模な事業という特殊性があり、かつ、社会情勢により当初計画に大幅な変更が生じてしまっているが、安心・安全な開催のためにノウハウを蓄積することと、開催を支える市民の関心を喚起することに注力して欲しい。

○42年ぶりの本県開催の国体に向けて、担当者と関係者の方々は着々と準備を進めてきていると思う。しかしながら、コロナ蔓延による未曾有の事態となっており、国体は令和2年度3年度と未開催となっている。先催県の視察もできず未だ収束が見えない状況だが、令和4年、栃木県では開催できると信じて準備を進めていかれるよう応援している。